教師用指導案

1. テーマ・授業名

テーマ 2 パラスポーツ
授　業 1「パラリンピックスポーツについて学ぼう！」

2. 授業の目標

・様々なパラリンピックスポーツを知ることで、パラリンピックスポーツを身近に感じさせ、興味を持たせることで、応援したくなったり、やってみたくなったり、他の人に紹介したくなったりする気持ちを醸成する。
・各パラリンピックスポーツが、障害の種類や程度に関わらず、競技を楽しく、公平に競うことができるように工夫されていることを知り、パラリンピックスポーツの意義を感じ、理解できるようになる。

3. 指導の留意点、工夫点

・児童の身近な話題や知っていることから結び付け、できるだけ興味が湧くようにする。
・パラリンピックスポーツで活躍している人や、パラリンピックスポーツで使われている用具なども紹介することで、より興味を引き出す。
・教師の一方的な説明にならないように、児童が能動的になれる、気づいたり考えたりする活動を取り入れる。
・ルールや用具を工夫することで、いろいろな人がスポーツに参加でき楽しめることに気づかせる。
・同じように、少し要素を変えるなどの工夫をしている、身近な例に気づかせる。

4. 準備物

・授業用シート(2-1)
・教師用授業ガイド(2-1)
・児童用ワークシート(2-1)
・映像資料 DVD：リオパラリンピック大会ダイジェスト
・映像資料 DVD：シッティングバレーボール
・映像資料 DVD：ゴールボール

〈展開案〉 ※【　】内は経過時間

時 間	教師の活動	指導上の留意点・配慮事項	準備物/教師参照物
導入 **（11分）** **【11分】** **目安** **映像：3分半** **個人ワーク：3分** **発表：5分**	（1） リオパラリンピックの映像を見せ、映像から「楽しそう」「面白そう」などの感想や「何だろう?」という疑問を引き出す。 ・映像を見せる ・ワークシートを配布し、○を書かせる （2） 児童の発表から、これからパラリンピックスポーツについて学ぼうという導入を行う。 ・発表させる	（1） 導入は以下に、2つの例を示すが、クラスのそれまでの学習経験、パラリンピックの知識の程度によって変えてよい。 ・[1-1]で、すでにこの映像を見ているクラスは見なくてもよい。時間が経っていたら、再度見せてもよい。 **導入①** あえて P1のスライドは飛ばして、いきなり映像を見せ「この映像は何?」と聞く展開をしてもよい。オリンピックと答える児童も多いと思われるので、実はパラリンピックの映像であり、オリンピックと同様に速かったり、かっこよかったりするということを伝え、これからの学習への興味関心を引き出す。 **導入②** 「パラリンピックスポーツについて知っていることは?」と挙手させて発表させ、パラリンピックスポーツについて学ぶという姿勢をつくる。 ・導入②の場合は、児童の発表内容がよかったら、大いにほめ、さらに興味が広がるような問いかけをする。 ⇒どうして知っているの? ⇒どんなふうにやるの? （2） ・発表では、様々なパラリンピックスポーツへの気持ちを取り上げたい。机間巡視をし、特に「かっこいい」「わくわくした」といった意見を持った児童に発表させることで、パラリンピックスポーツの学習により意欲的になるようにしたい。 ・パラリンピックスポーツだけでなくパラリンピック全体についての発言になるかもしれないが、否定はせず、教師が受け答えでうまく切り分ける。 **※障害に関するネガティブなコメント（「足がなくて可哀想」「手がなくて怖い」「気持ち悪い」など）も否定せずいったん受け止め、映像や写真などから、とても速い、力強いなど、選手の素晴らしいところに着目するように促す。** ⇒選手の表情を見てみよう。 悲しそうかな?　楽しそうかな? ⇒泳ぎの速さはどうだった?	・授業用シート(2-1) ・教師用授業ガイド(2-1) ・児童用ワークシート(2-1-P1) ・映像資料 DVD：リオパラリンピック大会ダイジェスト 【教師参照】 ・教師用ハンドブック P15～42

時 間	教師の活動	指導上の留意点・配慮事項	準備物/教師参照物
展開 **（19分）** **【30分】** **目安** **クイズまで:15分** **映像～まとめ:4分**	クイズ大会をしながら、以下の4 つの切り口から、パラリンピックスポーツに興味をもたせる。 1. 記録 2. 工夫 3. 用具 4. サポートする人 ・ワークシートへの記入 ・発表と答え合わせ ・映像を見せる ・まとめ	・クイズの解答を、1問1問ワークシートに書くか書かないかはどちらでもよい。3択問題などは、すぐ挙手させてテンポよく進めてもよい。 ・どのクイズも、「なんだと思う?」と聞き、写真をよく見せ、既知の学習事項なども取りあげ児童の解答への思考を促す。 ・ヒントをうまく出すことで、8割くらいは正解にするようにして、興味が持てるようにする。 ・+アルファ情報を伝える時も、単に伝えるのではなく、「どう使うの?」「何のためにだと思う?」など、児童を巻き込み、もっと調べたい、知りたいという気持ちにさせる。 ・教師が知らないことがあっても、「先生も知りたいから、一緒に調べていこう」と一緒に学んでいく姿勢を見せることで、答えは教師が教えてくれるものではなく、自分たちが調べたり考えたりして導き出すものだということに気づかせる。 ・児童の自由な発想の広がりを重視するために、クイズの出題時には 4 つの切り口を入れていない。ただし、クイズの後を 4 つの切り口で締めることで、パラリンピックスポーツを様々な観点から見えるようにする。 ・映像は、その後実践するスポーツを見せるとよい。時間があれば両方見せてもよい。感想はその場で口頭で発表させる。	・児童用ワークシート（2-1-P2,3） ・映像資料 DVD：シッティングバレーボール ・映像資料 DVD：ゴールボール 【教師参照】 ・教師用ハンドブック P36：陸上競技 P26：柔道 P19：車いすバスケットボール P35：ボッチャ P23：シッティングバレーボール P21：ゴールボール
振り返り **（10分）** **【40分】**	今日思ったことを児童用ワークシートに書かせ、振り返らせる。 ・ワークシートへの記入 （・まわりとの意見交換）	・うまく書けていない児童には、今日驚いたこと、知らなかったことなどを聞き出して、書けるようにフォローする。 ・まとめの時間は、全員が発表できるわけではないので、記入の進み具合によって、隣同士やグループなどで、意見交換の時間をとってもよい。	・授業用シート（2-1） ・教師用授業ガイド（2-1） ・児童用ワークシート（2-1-P4）
まとめ **（5分）** **【45分】** **発表：3分** **まとめ：2分**	数人に振り返りを発表させた後、まとめを行う。パラリンピックについてこれから学んでいこうという気持ちにさせる。 ・発表させる ・まとめる	・机間巡視をし、特に「東京 2020 パラリンピックを応援したい」「もっと調べてみたい」といった意見を持った児童に発表させることで、パラリンピック学習により意欲的になるようにしたい。 ・時間があれば、最後にもう一度今日学習した内容を振り返り発表させることで、今後の学習意欲につなぐ。	